

インドネシア共和国
男女参画型貧困村落開発支援
基礎調査報告書

平成 13 年 4 月

国際協力事業団
社会開発協力部

序 文

インドネシア共和国はジェンダー主流化(ジェンダー・メインストリーミング)を国家政策として位置づけるとともに、従来の「女性の役割省」を「女性のエンパワーメント省」に再編成するなど、中央政府におけるジェンダー平等の促進強化を進めている。しかし、地方分権化の進展に伴って、州・県などの役割が大きくなるにもかかわらず、州以下の地方レベルではジェンダー平等がほとんど進んでいなかった。とりわけ、沿岸農漁村地帯の女性たちは、その置かれた地位が低く、家事と生産活動の負担が重いうえ、開発への参加の道やその便益の享受から取り残されている。

こうした事態を踏まえてインドネシア共和国政府は、沿岸地方の女性に対する助成事業を通じて地方政府のジェンダー政策強化を図るとともに、これら女性の収入向上と生活環境の改善をめざしたいとして、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

これを受け国際協力事業団は、2001年3月7日から同28日まで、当事業団社会開発協力部部長田中 由美子を団長とする基礎調査団を現地に派遣し、要請の内容と背景、住民のニーズ等を確認するため、関係各機関から情報収集するとともに、現地調査で実情の把握に努めた。

本報告書は、同調査団の調査・協議結果を取りまとめたもので、今後のプロジェクト形成に広く活用されることを願うものである。

ここに、調査にご協力いただいた外務省、文部省、東京大学、龍谷大学、在インドネシア共和国日本大使館など、内外関係各機関の方々に深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成 13 年 4 月

国際協力事業団
社会開発協力部
部長 田中 由美子

目 次

序 文

略語表

地 図

写 真

| | |
|---|----|
| 1 .基礎調査団の派遣 | 1 |
| 1 - 1 調査団派遣の経緯と目的 | 1 |
| 1 - 2 調査団の構成 | 2 |
| 1 - 3 調査日程 | 3 |
| 1 - 4 主要面談者 | 7 |
| 2 .要 約 | 9 |
| 3 .政府の「開発と女性(WID)」「開発とジェンダー(GAD)」への取り組み | 11 |
| 3 - 1 政府の女性政策・ジェンダー政策 | 11 |
| 3 - 2 「女性のエンパワーメント省」 | 13 |
| 3 - 3 WID 運営委員会と女性局 | 15 |
| 4 .調査対象地域における地方政府の「ジェンダー主流化」に対する取り組みと現状 | 17 |
| 4 - 1 調査対象地域 | 17 |
| 4 - 2 西ジャワ州チレボン県 | 18 |
| 4 - 3 中部ジャワ州スマラン市・デマック県 | 24 |
| 4 - 4 ジョグジャカルタ特別州 | 28 |
| 4 - 5 中部ジャワ州チラチャップ県 | 30 |
| 4 - 6 南スラウェシ州タカラル県 | 32 |
| 5 .援助機関による取り組み | 39 |
| 5 - 1 主要援助機関のジェンダー・「開発と女性(WID)」分野に関する協力 | 39 |
| 5 - 2 NGO のジェンダー・WID 分野に関する協力 | 43 |
| 5 - 3 大学の女性研究センター | 49 |

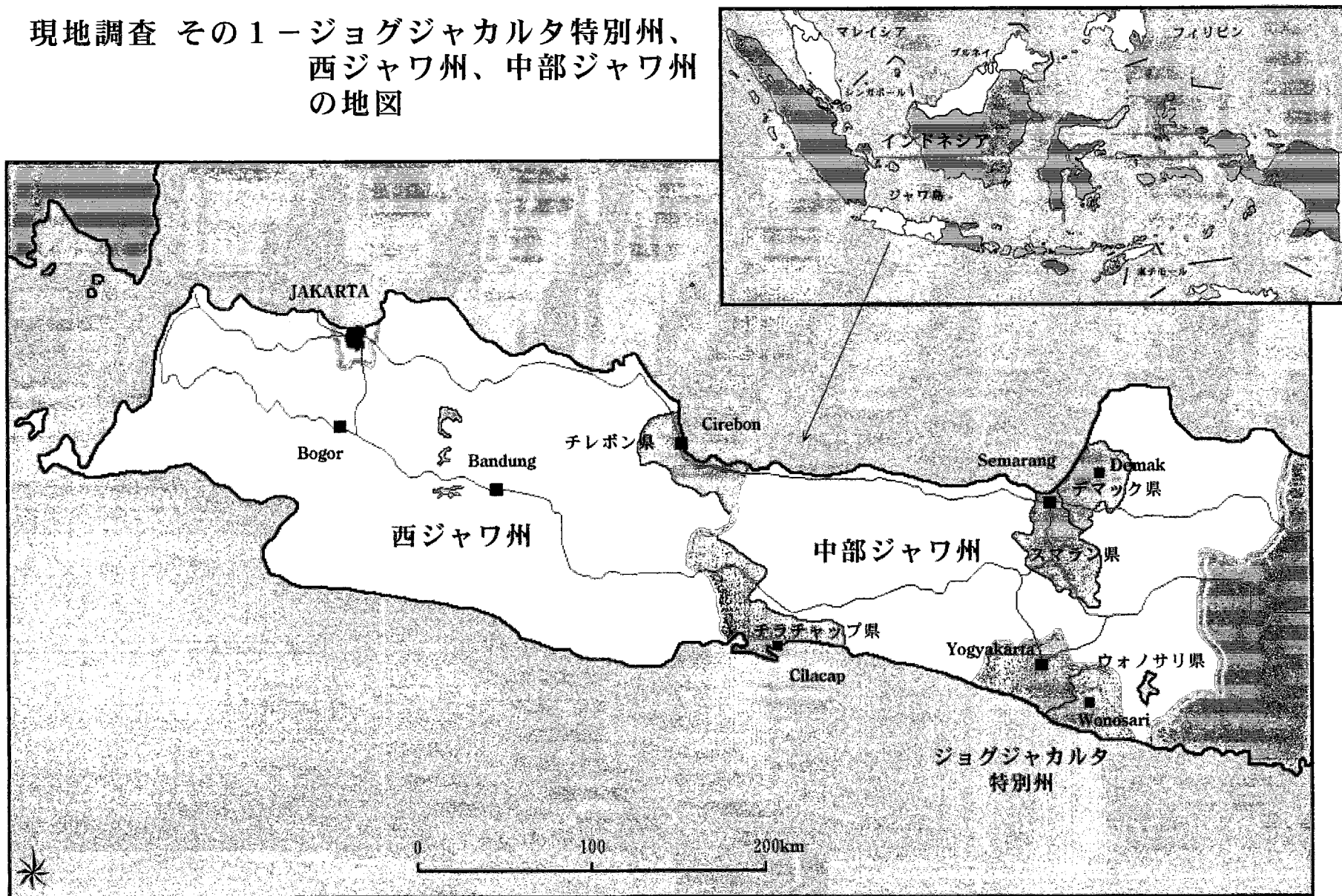
| | |
|---|----|
| 6 .我が国のジェンダー・「開発と女性(WID)」分野に関する協力 | 51 |
| 7 .今後の調査の留意点及び次期調査候補地 | 54 |
| 8 .今後の展望 | 61 |
| 付属資料 | |
| 1 .教育分野の基礎指標 | 69 |
| 2 .参考文献 | 74 |
| 3 .NGO ワークショップにおける質問票回答 | 75 |
| 4 .面談記録 | 82 |

略 語 表

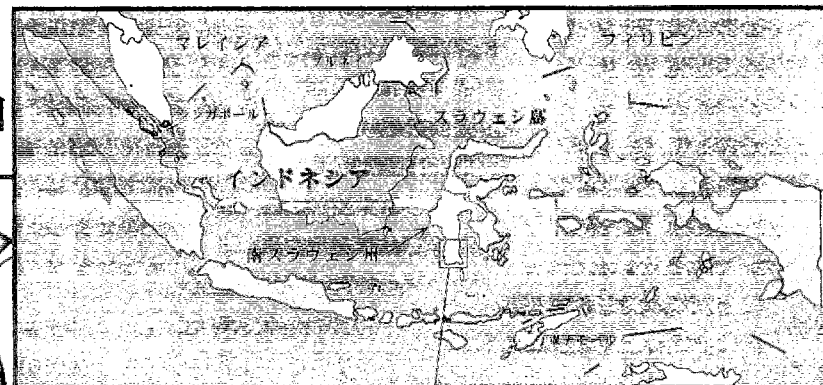
| | |
|----------|--------------------------|
| AusAID | オーストラリア国際開発庁 |
| BAPPEDA | 開発企画庁(州、県) |
| BAPPENAS | インドネシア国家開発企画庁 |
| BHN | ベーシック・ヒューマン・ニーズ |
| BI | インドネシア中央銀行 |
| CEVEST | 職業訓練指導員・小規模工業普及養成センター |
| CIDA | カナダ国際開発庁 |
| CIFOR | 国際林業研究センター |
| DfID | イギリス国際開発省 |
| DINAS | 各省の州又は県の業務局 |
| EEOW | ILO の女性雇用拡大プロジェクト |
| EMC | 環境管理センター |
| FAO | 国連食糧農業機関 |
| GAD | 開発とジェンダー |
| GBHN | インドネシア国家政策大綱 |
| GTZ | ドイツ技術協力公社 |
| ILO | 国際労働機関 |
| P2W | 女性の役割向上プログラム |
| PAN | 国民信託党 |
| PKB | 民族覚醒党 |
| PKK | 家族福祉向上運動 |
| PKP | Program Ketahanan Pangan |
| PRA | 参加型農村調査法 |
| PROPENAS | 国家5か年開発計画 |
| SSN | ソーシャル・セーフティー・ネット(社会安全網) |
| UNDP | 国連開発計画 |
| UNFPA | 国連人口基金 |
| UNICEF | 国連児童基金 |
| UNIFFM | 国際婦人開発基金 |

| | |
|-------|------------------|
| UPKD | 村落活動運営機関 |
| USAID | アメリカ国際開発庁 |
| WID | 開発と女性 |
| WSP | CIDA の女性支援プロジェクト |

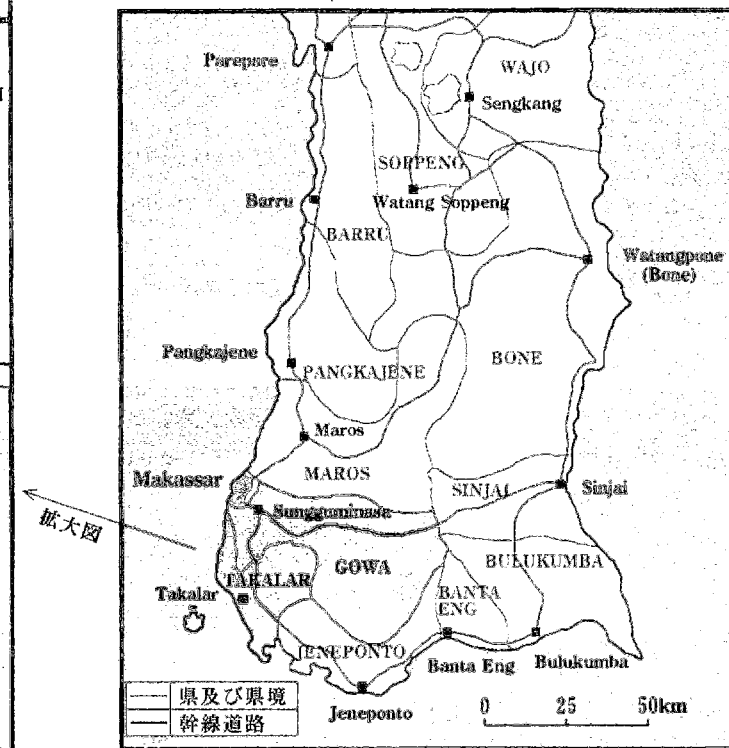
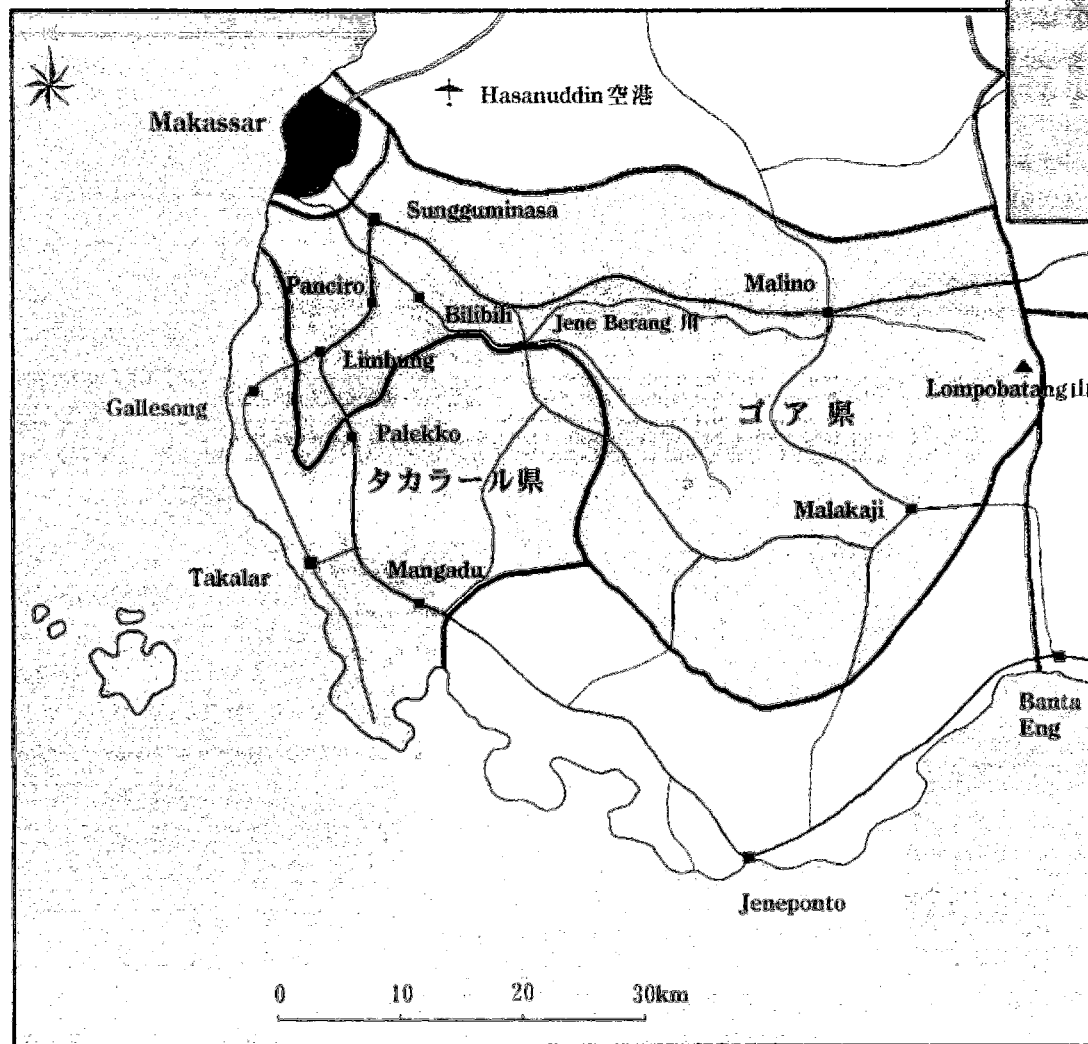
現地調査 その1 - ジョグジャカルタ特別州、
西ジャワ州、中部ジャワ州
の地図



現地調査 その2 - 南スラウェシ州
 タカラール、ゴア両県の詳細図



南スラウェシ州南部地域の拡大図



西ジャワ州チレボン県



塩干加工魚(イカンアシン)をつくる女性

軒先に座り、包丁1本で作業をする。



漁業組合の女性メンバーたち

女性が魚の産地集荷小売り、行商人として働く。なかには左の女性のように、地元仲買人もいる。

視察先ゲバン・メカール村近郊の漁港
漁船がひしめき合って停泊している。手前は塩干加工魚が日干しされている。



漁船の建造現場

注文を受けてから建造。ジャティという木で造る。



ランプ傘工場で働く少女たち

ホタテ貝に似た貝をはさみで切ってから(左上)色づけする(右上)。
製品は主にヨーロッパへ輸出される。



カニ加工場で働く児童

カニの殻剥きをして、身を取り出している(右)。
明らかに10代前半の少女たちが作業をしている(左上)。



中部ジャワ州スマラン市・デマック県



市場で塩干加工魚を売る女性
加工作業をしながら販売している。



ココナッツをすりおろす女性
インフォーマルセクターは過密になり、薄利でもすりおろす作業のように手間をかけなくては売れない。



カニの出荷業者(右)からカニを買い取る仲買人の女性(左)
店の奥には氷詰めされたカニが山積みされている(写真左)。



市場に隣接した漁港
視察したスマラン市内の市場に隣接している。



養殖池のある村落の船着き場と停泊中の漁船

スマラン市内から東に約1時間のデマック県。漁民の話では漁は日帰りである。

デマック県でエビの養殖を行っている男性
養殖池の管理は後方に見える村の男性を雇用。彼自身はスマラン市内に住んでいる。



ミルクフィッシュの養殖池

16年前に塩水が流入し、この周辺の集落は水田を養殖池に造り変えた。



ジョグジャカルタ特別州



テンペ（左）を売る女性たち（右）

テンペとは大豆類を潰して発酵させた食品。ジョグジャカルタから南東へ約 1 時間のウォノサリ市場にて。



飼葉・薪を集める男（右）女（左）

ウォノサリ県セマヌ郡の農村。土地なし農民が多いという。



農村の土地なし農民たち

土地なし農民は政府から土地の使用権を供与され、畑作を行う。また同じ土地で政府の所有する香油が採れる木を管理する。



NGOワークショップ

挨拶する調査団団長（上）と活動を報告する Oxfam の職員（左下）。
2 大学と 7 NGO のスタッフ（右下）らが参加し、活動について意見
交換、情報交換をした。

中部ジャワ州チラチャップ県



チラチャップ県政府表敬

知事の挨拶に続いて、県の概要、漁村女性への支援の必要性が説明された。



漁業組合婦人部ミノワティの活動

メンバーから組合の活動(写真右、エイの-snack、シラス干し、薫製など)について説明を聞く。緑色の制服姿は PKK(家族福祉向上運動)のメンバー(写真左)。組合を母体に PKK の活動にも積極的に取り組んでいる。

シディガヤ村の漁港

調査時 3 月は不漁期で、川港に漁船が密集して停泊していた。





加工作業を行う漁民女性たち(左)と談笑する漁民男性たち(右)

女性たちは漁業組合婦人部のメンバーたちで、組合を通して作業の手間賃をもらっている。不漁期、男性漁民たちは他の仕事がなく、一日中談笑しているという。この時期は貯蓄を切り崩すか、加工作業をしている妻たちの収入に頼って生活している。

南スラウェシ州



州開発企画庁と各業務局との会合

不漁期は仕事がない、船を保有できない、高利貸しを利用しているなど零細漁民の現状と問題について、行政側から説明された。



農村におけるトイレ造り（左）と高床式の家（左下）

トイレ造りは住民のニーズに基づいて、JICA「スラウェシ貧困対策支援村落開発計画」が支援する活動の1つ。タカラール県ポロンバンケン郡ラッサン村にて。





砂浜市場と漁船

沖合の漁場で獲った魚を大型船から中型船(3人乗り)に移して水揚げする(左上)。水揚げされた魚は浜辺にあるガレソン市場からマカッサル市などに出荷される(右上)。

右横はマンゴーの木をくり抜いて造った丸木船。通常2、3人乗りで日帰りの漁を行う。ガレソン北郡ベバ村にて。



砂浜漁村の様子

網を繕う漁民男性と手伝いをする妻(左上)。午後3時過ぎから出漁する漁民男性たち(右上)。砂浜海岸の後方には村が隣接している(右下)。

